



## 1ヤード刻みの緻密な運用で より正確なコースHDCPを算出

現行のJGAハンディキャップシステム(USGAハンディキャップシステム準拠、通称スロープシステム)が間もなく5年目に入ろうとしている。開場85年の歴史を誇る廣野ゴルフ倶楽部(兵庫県)では初年度の2014年から採用。より緻密な運用で倶楽部競技に活用している。その内容を鈴木一誠理事長、佐井裕正ハンディキャップ委員長に聞いた。



JGAハンディキャップシステムの緻密な運用について語る佐井裕正ハンディキャップ委員長(左)、鈴木一誠理事長(右)。

— スロープシステムも5年目に入ろうとしています。廣野ゴルフ倶楽部では初年度からすべての倶楽部競技に採用したと伺いました。採用までの経緯をお聞かせ願いますか。

**佐井** JGAの役員の方から「関西で廣野が真っ先にやってほしい」と言われておりましたし、ここにいらっしゃる鈴木理事長が当時、JGAハンディキャップ委員会の副委員長を務めていたこともあって採用することは問題なく決まりました。我々ハンディキャップ委員会でも最初に決めて、理事会に報告しました。ただ、会員の皆様への説明などもあって本来のスタートである1月1日からは少し遅れて、4月1日から採用となりました。

**鈴木** 私は当時、廣野ではキャプテンだったのですが、「やりましょう」と、もうそれだけです。

— 会員に説明するにはハンディキャップ委員長ご自身がスロープシステムを理解しておく必要があると思います。どのようにしてご自分の中に取り入れていきましたか。

**佐井** JGA開催の説明会にも行きましたし、JGAからいただいたガイドを読み込みました。さらに、ほかの倶楽部さんが会員みなさんにスロープシステムの概要を説明するために作成した資料を取り寄せて、どのようにすれば理解していただきやすいかということも研究しました。

— これまでインタビューさせていただいた倶楽部では、スロープシステム採用時に会員から多かれ少なかれ賛否両論あったと聞いています。その点はいかがでしたか。

**佐井** もちろんありました。「こういうことをする必要はあるのか」という意見もありました。

— そのような会員の方にはどう説明して納得していただいたのでしょうか。

**佐井** プレーヤー自身のHDCPインデックスからその日プレーするコース、ティーのコースHDCPに換算してプレーすることがいかに公平なのかということをお話ししました。従来ですと、限りなく難しいコースでプレーしてもやさしいコースでプレーしても同じHDCP。同じコースの場合でもバックティーからプレーしてもレギュラーティーからプレーしてもHDCPは変わりませんでした。



— おっしゃる通りです。

**佐井** 廣野を例にあげますと、バックティーが極端に難しいのです。HDCP5のプレーヤーとHDCP1のプレーヤーがレギュラーティーで対戦すると何とか勝負になりますが、バックティーからとなるとこのHDCP差(4)ではHDCP5のプレーヤーはなかなか勝てません。それくらい、バックティーでやると実力差が顕著に出るのです。ところが、スロープシステムならば難易度によってHDCPをうまく調整してくれます。だからより公平にプレーできるのだと伝えていきました。

— 会員のみなさんは概ね理解していただいたようですか。

**鈴木** 全員というのは無理ですが、プレー頻度の高い方、いわゆるアクティブメンバーの方からはある程度理解していただきましたので、GOでした。採用時には十分に理解できていない方でも、実際にスロープシステムでプレーしていくうちに理解してもらえらるだろうという思惑もありました。

【ハンディキャップの歴史】(概略)

年代	欧米	日本
17世紀後半	HDCPの概念が広まり始める	
1900年頃	英国女子連盟が初のCR開発	
1911年	USGAが初めてCR導入(全米アマ優勝者のスコア)	
1920年代～	全米各地区でHDCPシステムの改善策考案	1950年代 JGA HDCP制度導入(USGA制度を参考に開発)
1960～70年代	USGAが障害難易度査定法を考案 現行HDCP制度の基礎完成	1978年 旧JGA制度施行(USGA制度を参考に開発)
1979年	USGAがスロープシステム開発着手	
1987年	USGAがスロープシステム正式施行	
2010年～	現在世界約60の国と地域で採用	2010年 スロープ導入決定(USGAとJGAが正式契約締結)
2014年～		スロープシステム施行(USGAハンディキャップシステム準拠)

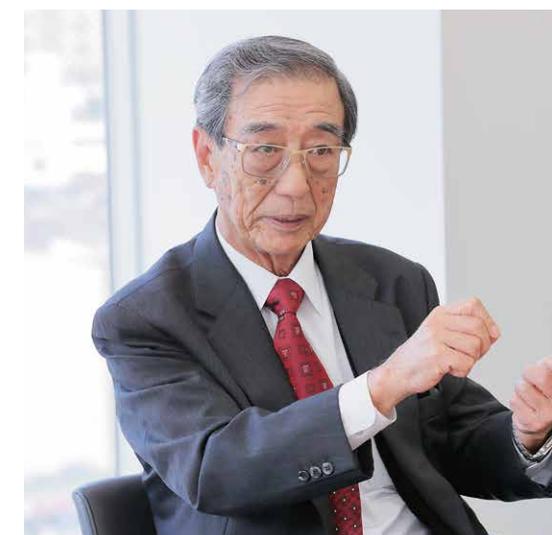
CR=コースレーティング

— スロープシステム採用後、倶楽部競技で何か変化はありましたか。

**鈴木** マンスリーで優勝する会員の顔ぶれが変わってきましたね。そういう意味ではスロープシステムが普及してきていると感じます。

**佐井** 以前は優勝される方の顔ぶれがある程度決まっていたから。それに、ティーはプレーヤー自身が選択できるように変更しました。以前は年齢で分けていましたが。

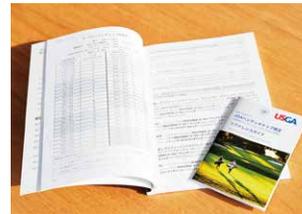
**鈴木** 競技によって、レギュラーティーからラウンドする場合と、ゴールドティーからの数値の2通りのコースHDCPの数値が倶楽部側から案内され、プレーヤー自身がどちらかのティーでエントリーするか自由に選べます。



**佐井** シニアのプレーヤーが多い競技ではレギュラーツーでも微妙に前に出して距離を調整しています。その場合は本来のレギュラーツーの距離から短くなった分をJGA/USGAコースレーティング調整値に従ってその競技のコースレーティングを算出しています。たとえば1番ホールは5ヤード前に出して、2番ホールは10ヤード前に出して、といった具合に18ホール合計で150ヤード短く設定したとすればコースレーティングを0.7少なくするというように。

**鈴木** マンスリーではレギュラーツーでコースレーティングがだいたい72.0になるように設定していますね。  
 —— そここまで細かく運用されている倶楽部はあまり聞いたことがありません。

**佐井** レーティング調整表がありますから、それほど手間になりませんよ。



JGAハンディキャップ規定とJGAハンディキャップ規定リファレンスガイド

**鈴木** 競技によって距離が違うのですから、コースレーティングが変わってしかるべきだと思います。

**佐井** 話は変わりますが、廣野には秋に男性と女性がペアを組むミックス競技があります。スロープシステムはこのミックス競技で最も効果を発揮していると思います。

—— どのような効果がありますか。

**佐井** 廣野のような古い倶楽部はレディースティーでも距離が長くて厳しい場合が多いのです。ほかの倶楽部さんの話ですが、レディースティーでも100ヤード以上飛ばないと池を越えないホールもあります。こうなるとそれほど飛ばない女性にはきつい。それがスロープシステムですと難しいほどコースHDCPが多くなりますから気持ちも楽になります。同じような効果があるのか、廣野でもミックス競技のスコアが圧倒的に良くなりました。

**鈴木** 最近はアンダーパーが出始めましたからね。今までにはなかったことです。

**佐井** そうなんです。女性のプレーヤーが非常にやる気になっていますね。

—— スロープシステム採用後、ほかに何か効果を感じるところはありますか。



**佐井** 最終ホールまであきらめずに一生懸命にプレーするという効果があると思います。

—— といいますと。

**佐井** かつてHDCPひとケタのいわゆるシングルのプレーヤーはある意味倶楽部の看板というようなところがあったと思います。そのため、シングルにはスコアだけでなく、ゴルファーとしての品格なども求められる。ですから、シングルになるには高いハードルがありました。その反面、一度シングルになるとなかなか落ちない傾向もありました。ところがスロープシステムですと毎月変動するわけです。シングルから落ちてでも頑張ればすぐにシングルに戻れる。だから、最後まであきらめずに1ストロークでも良くしようという励みになると思うのです。

—— 確におっしゃる通りだと思います。では最後にスロープシステムをより普及させるための提言などありましたらお聞かせください。

**鈴木** 所属倶楽部を通じてスコアカードを提出する方は問題ないのですが、個人でパソコンなどから入力する方はアテスト不要です。より公平さを期すためにきちん



長い歴史を誇る廣野ゴルフ倶楽部もスロープシステムを採用している

とアテストするようなシステムをつくっていくべきではないでしょうか。アテスト不要ならばわざと悪いスコアを入力して大きなHDCPを取得し、それを悪用して競技で好成績を挙げることもできます。そのようなプレーヤーが増えれば、システムの崩壊につながりかねません。

—— 個人入力でアテストを求めることは簡単ではないと思いますが、何かいいアイデアはありますか？

**鈴木** パソコンでの入力以外に、アテスト済のスコアカードを実際に送ってもらってもいいかと思います。あるいは、各ゴルフ場でアテスト済のスコアカードを読み込んでデータを転送するようなシステムをつくるということも考えられます。よりフェアなHDCPにしていくためにも対策を考えていただければと思います。

—— 貴重なご意見ありがとうございました。



JGAから発行されているコースレーティングとスロープレーティングの認定書

### 世界基準の HDCPインデックス証明書



- ☑ これ1枚あれば世界中で認められるゴルファー必携のIDカード
- ☑ HDCPインデックスは米国をはじめ世界約60の国と地域で通用(全米アマなどのエントリーにも公式に認められる)
- ☑ ローマ字併記なので従来の国際HDCP証明書発行は不要
- ☑ 毎月1日(月1回)更新され、常に最新のHDCPインデックスを表示

